

平成 25 年度

独立行政法人福祉医療機構

福祉活動支援助成事業

若年性認知症・初期認知症の専用サービスの開発事業報告書

平成 26 年年 3 月 31 日

特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター

平成 26 年 3 月 31 日

若年性認知症・初期認知症の専用サービスの開発事業報告書

平成 25 年度独立行政法人福祉医療機構福祉活動支援事業助成金報告書

作成：特定非営利活動法人認知症の人とみんなのサポートセンター

住所：大阪市東成区東小橋 1 - 1 8 - 3 3

TEL：0 6 - 6 9 7 2 - 6 4 9 0 FAX：0 6 - 6 9 7 2 - 6 4 9 2

E-mail dementia.spc@kxe.biglobe.ne.jp

事業名：若年性認知症・初期認知症の専用サービスの開発事業

特定非営利活動法人

事業の全般的なまとめ

認知症の人とみんなのサポートセンター

沖田裕子

<はじめに>

現在、全国では、認知症の診断技術の向上により、早期発見された若年性認知症や初期認知症の人たちは増えているにもかかわらず、既存のサービスを利用しにくい状況にある。相談事業などを通じて、その理由を考察すると、第一にデイサービスを利用したいが認知症等の重度の人の利用が多く活動性が少ないことがあげられる。介護保険の認定も、身体的介護が重度となった状況を想定して作成され、認知症の程度では要介護度の認定が適切に行われていなかったことが指摘されていた。身体的介護の必要が高い人をイメージしたサービスが多い。第二に若年性認知症や初期認知症の人へのサービスの提供方法をどのようにしたらよいか明確にされていないために、専門職のケア技術が伴っていないことがあげられる。

<結果>

今回、本事業に取り組んで、若年性認知症・初期認知症の専用デイサービス（協力団体：大阪市北区社会福祉協議会、通所介護施設「かみやま倶楽部」、以下かみやま倶楽部とする）平成26年1月末の登録利用者は21人であった。

そのうち、家族アンケート（資料3）に答えた20人をみると、50歳代2人、60歳代11人、70歳代5人、80歳代2人であり、50歳～70歳の利用者がほとんどであった。かみやま倶楽部に参加するきっかけ（複数回答）は、「認知症について進行予防ができそうだったから」が最も多く11人、次いで当法人のスタッフのすすめが9人、「他のデイサービス、デイケアよりも本人が好みそうだったから」と「その他」が8人であった。その他の中には、若年性認知症に対応していることがあげられていた。また、高齢の利用者の家族は、若年性認知症の人と一緒に活動することについて「若い人達と体を動かすことができ良かった」と肯定的にとらえられていた。一方で、難しいこととしては、「体力的についていけないのでは」と感じられていた。

かみやま倶楽部を利用しての本人のよい変化は、「達成感があるのか明るくなった」「体力がついてきた」「集団生活が可能になった。この病気（前頭側頭型認知症）になってからは不可能だと考えていました」などがありました。家族のよい変化は、「安心できるようになった」「（あんしん塾に参加して）他の家族の話が聞けて参考になった」などがあげられていた。

アドバイス活動（Ⅱ-1）は、『「できること」を増やしていくための仕組み』に重点を置き行い、活動の記録からも『デイサービスにおけるプログラムを効果的にするためにスタッフが行っているサポート』を読み取っていくと（Ⅱ-2）、【本人のできることを自分で決めて行えるためのサポート】【情報の伝達におけるサポート】【参加するためのサポート】【記憶障害の補助サポート】や【自信を回復するためのサポート】【本人の気持ちを引き出すためのサポート】【リスクを回避するためのサポート】【仲間づくりのためのサポート】などがあげられた。

個別ケースの記録（資料1）は、スタッフに記入してもらい委員会でも内容を追加した。次のことが読み取れた。50代、60代の利用者は、遠方からでも工夫をして通ってくる人が多く、同年代の人との交流、アクティブな活動を求めている。他のデイサービスで見られた帰宅希望は、利用開始よりほとんどなく、

集団行動が行えていた。経済的な悩みや、利用日を決めても家族が働いているために送り出しができなかったりして、利用が定着するまでに時間がかかっていた。

70代、80代の利用者の中には、利用開始当初は同じ言動の繰り返し、帰宅希望が頻回にあったが3ヶ月後くらいから落ち着いて過ごせるようになった。70代、80代の利用者も、他のデイサービスでは利用を好まれず、本人に合うデイサービスを探していた。年長者としてのリーダー的な役割や、マナーを守るように指導したりする姿が見られた。また、体幹の安定、体の傾きの改善、歩行状態の改善、意欲の向上が見られた。

年齢にかかわらず、かみやま倶楽部の利用は、若い利用者が多いこと、重度介護の必要な人がいないことが理由で利用が決められていた。

<考察>

「若年性認知症・初期認知症の専用デイサービス」では、「できること」に注目してサポートしていくことによって「できること」は増え、精神的に安定し過ごすことができていると考えられる。また、自発的な行動や発言、仲間意識が生まれた、若年性認知症・初期認知症の人それぞれに良い効果があったと考えられる。

疾患別のケアを意識することで、前頭側頭型認知症の人の集団行動の可能性やできることを多くみつけることができた。特に、若年性認知症の人には、疾患の特徴を知ってケアしていくことが重要であると再認識された。加えて、家族が学び適切な対応でできるようになることや、家族の協力が得られることが重要であると言える。

継続上の課題は、若年性認知症の人は、遠方からの送迎、経済的に苦しいこと、家族が働いていて負担が多いなどについての対応である。さらに、かみやま倶楽部で継続できなかったケースは、排泄などの介護が必要になってからの利用者であった。進行してからでは信頼関係が作りづらく継続が困難であったことから、初期からの利用が重要であることが考えられた。

若年性認知症と初期認知症と、年齢が異なった利用者であったが、高齢者がいることで安定感があった。若年性認知症の人のためのデイサービスでは、年齢だけにこだわらず、認知症の程度や活動性に配慮が必要で、その中で「できること」増やしていくことが重要ではないかと考えられる。

今後は、かみやま倶楽部を実践教育の場とすることも視野に入れ、他の地域でも同様のサービスを提供できるように人材を育成していくことが望まれる。

若年性認知症・初期認知症の専用サービスの開発事業報告書

<目次>

I. 事業概要

II. 若年性認知症、初期認知症専用サービスへのアドバイス活動による実績

1. 「できること」を増やしていくための仕組みの効果

2. デイサービスにおけるプログラムを効果的にすすめるためにスタッフがやっているサポート

3. 若年性認知症、初期認知症の人へのアートの効果

4. 言語訓練の取り組み

III. 若年性認知症、初期認知症専用サービスのための研修実施

研修アンケート結果

IV. 若年性認知症家族支援講座（あんしん塾）

資料1 個別ケース記録

資料2 研修チラシ及び、アンケート票

資料3 家族向けアンケート結果及び、アンケート票